

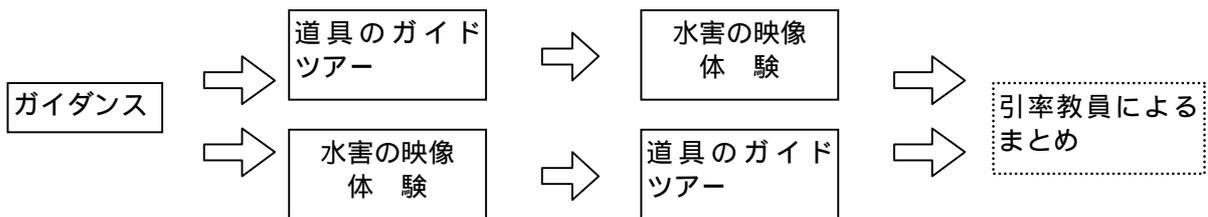
昔の道具について調べよう

南湖小学校の4年生は、社会科の『昔の暮らしとまちづくり』の学習の一環として、県立博物館を訪れ、昔の道具についてのガイドツアーを体験したり、昔の道具に直接ふれたりした。

社会科の『昔の暮らしとまちづくり 昔の暮らし～きょうどしりょう館をたずねて』単元の一環

事前 かいじあむ歴史かみしばいを活用した事前指導を行った。かみしばいを活用して、博物館の概要についても学ぶことができた。

当日の流れ



道具のガイドツアーで扱った資料

縄文土器は、煮炊きのための道具でもあった。子どもたちには「大昔のおなべだよ」と説明した。



楯無の鎧のコーナーでは、「よろい・かぶとは昔の戦いのための道具だよ」と説明。



ノラのコーナーには、農機具を使っている人形がたくさん展示されている。



体験の「なりわい」コーナーに置いてあるいろいろな道具を「これはどんなことに使われたでしょうか?」とクイズを交えて紹介し、実際に手に取ってもらった。



事後

見学後に「昔の暮らしとまちづくり」で、昔の道具調べの学習を行った。博物館で見学したことがきっかけとなって、自分が調べたい道具について祖父母や父母の子どもころの様子について意欲的に取材することができた。今の道具と比べることで、その時の人々の様子や気持ちを想像するようになった。また、国語の時間を利用して、博物館に礼状を書き、送付した。

一言

「むかしの道具」をテーマにしたガイドツアーをしたことや、昔の道具を見たり、直接ふれたことで、この単元に深くかかわることができたと思う。博物館の中で、子どもたちは昔の中にタイムスリップしたような感覚になった。ここで体験したことや経験したことは、この単元のねらいを達成するための大切なものであった。
(南湖小学校 功刀 典子)